

2023年度



歯科衛生士 書き込み式 学習ノート

④ 臨床科目編 〈下〉

医歯薬出版 編

I 編

歯科補綴学

IV 編

高齢者歯科学

II 編

歯科矯正学

V 編

障害者歯科学

III 編

小児歯科学

医歯薬出版株式会社

学習ノートの特長と効果的な使い方

特長

- 「歯科衛生学シリーズ」に準拠し、要点をまとめ、重要ワードを自分で書き込んでいく学習ノート。
- 自分で書き込むことによって、教科書の理解が深まる。
- 科目別になっているので、持ち運びしやすく、分類・整理しやすい。
- 講義で配布されたプリント類と一緒に綴じておける。
- 自分で書き込む重要ワードの解答は巻末にまとめてあり、取り外しが可能。
- 各所に「歯科衛生学シリーズ」の参照ページが明示されている。

効果的な使い方

- 日常の講義の予習・復習に使ってみましょう。
- 空欄に重要ワードを書き込むだけでなく、講義で気がついたポイントなどを書き込んだり、マーカーで色をつけてみましょう。
- 校内テストの前に学習ノートで復習しましょう。
- 国家試験対策でも活用しましょう。

自分だけのオリジナルのノートを作ってみましょう！

* 2023年発行の「歯科衛生学シリーズ」、その他テキストに準じています。

* 切り取る際には、ミシン目から1枚ずつ丁寧に切り取って下さい。

1 補綴歯科治療の方法と補綴装置

1 補綴とは

- 「補綴」とは、歯・歯列・顎骨・顔面の欠損を人工装置で補い、障害された機能（^[1]咀嚼機能、^[2]発音機能、^[3]審美機能）と、口元および顔貌の^[4]美観（見た目）を改善・回復することである。

2 治療の目的

- 「元気で健康な人」の治療目的は、^[5]咀嚼機能、^[6]発音機能、^[7]審美機能と審美性や顔貌を改善・回復させることを通じて、^[8]生活の質（QOL）の状態にならないよう、健康の維持・増進をはかり、^[9]寿命を延ばすことである。
- 「フレイルや要介護の人」の治療目的は、フレイルを改善すること、要介護の状態がひどくならないようにする（介護の重症化予防）ことで^[10]生活の質（QOL）を改善することである。

3 歯の欠損に伴う口腔内の生理的变化（図1）

- 歯が欠損すると隣り合う歯（^[11]隣接歯）が移動し、位置が垂直的にも水平的にも変化する。
- これが歯の^[12]傾斜、歯の^[13]捻転、歯の捻転（ねじれ）であり、これらにより接触点（隣

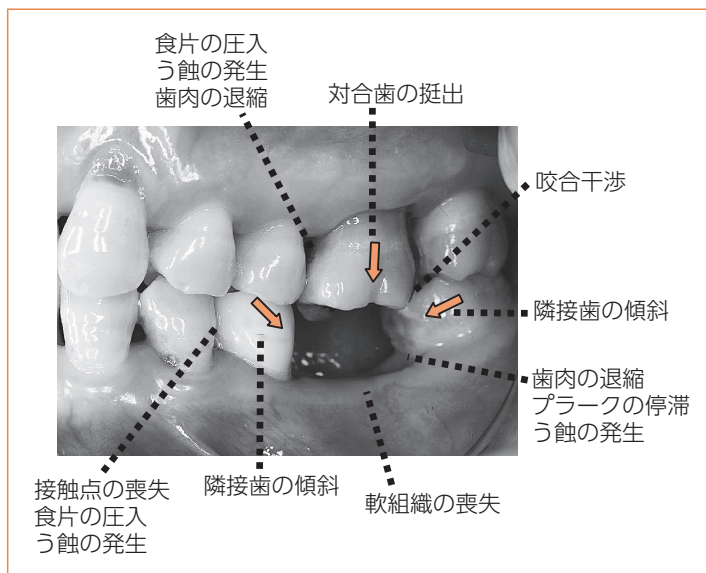


図1 1 歯が欠損して起こる口腔内の変化
（「歯科補綴学」p.10 参照）

7 トラブルへの対応

矯正歯科治療は、^[1]]や^[2]]・^[3]],
^[4]]などを招くことがある。

1 う蝕，歯肉炎，歯周疾患

矯正治療中の歯面の^[5]],^[6]],^[7]]を防ぐため，固定式矯正装置の装着にあたっては患者や保護者に口腔清掃の重要性について十分に説明し，ブラッシングの徹底を促す。来院時にはPTC (professional tooth cleaning), ^[8]]なども継続する。

2 歯根吸収

矯正治療中の歯根吸収は^[9]]に生じやすく，治療開始前に歯根の^[10]]が必要である。^[11]],治療期間の^[12]]などは避け，治療中にも定期的にエックス線検査を継続する。

3 顎関節症

矯正歯科治療を開始する前から顎関節症の症状を有する患者には，他科と連携して対応する。治療中は症状の変化に注意する。

4 アレルギー

矯正歯科用材料に含まれる^[13]],クロム，コバルトなどの金属が感作源となりアレルギー性炎症を起こすことがある。^[14]]の既往のある患者に対しては使用する装置の材質に注意する必要がある。

5 トラブルへの対応

1) 誤飲，誤嚥

消化管内へ異物を飲み込むことを^[15]],気管内へ異物を吸引することを^[16]]

という。ブラケットなどが口腔内に落下した場合は、急に水平位から座位に頭位を変化させると誤飲や誤嚥を引き起こすきっかけとなるため注意する。誤飲、誤嚥が生じた場合は専門医に依頼する必要がある、特に〔¹⁷ 〕が生じた場合は早急に対応しなければならない。

2) 装置装着直後や調節後の痛み

装置装着直後や調節後の痛みは〔¹⁸ 〕であることを説明し、必要ならば鎮痛薬の服用を指示する。

3) 粘膜の刺激・障害

(1) マルチブラケット装置

マルチブラケット装置では〔¹⁹ 〕の遠心端や〔²⁰ 〕が突出して、粘膜を損傷することがあるので装着時に確認する(図 45)。応急処置として、患者自身でホワイトワックスを貼りつけて対応することが可能であることもあらかじめ指導しておく(図 46)。



図 45 突出したアーチワイヤーの遠心端
(「歯科矯正学」p.115 参照)
上顎は粘膜を損傷しないようにワイヤーの遠心端を折り曲げてある。



図 46 患者自身による応急処置(「歯科矯正学」p.115 参照)
ホワイトワックスを用いた応急処置。

(2) その他の矯正装置

床装置の床縁の不適合や〔²¹ 〕によって装着時に痛みを感じたり、〔²² 〕(褥瘡性潰瘍)を形成した場合は床の形態を修正する(図 47)。

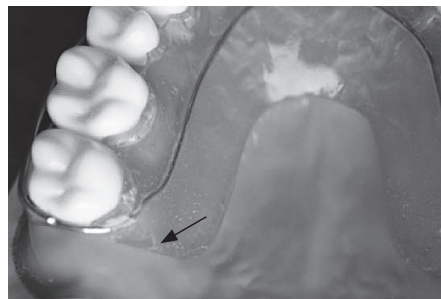


図 47 床矯正装置(「歯科矯正学」p.116 参照)
破損した床辺縁が鋭縁にならないように注意する。

(3) 装置の脱離、変形、破損

〔²³ 〕矯正装置は、〔²⁴ 〕や〔²⁵ 〕によって変形、破折、脱落などを起こすことがあるので、あらかじめ患者と保護者に注意しておく。

4 口腔健康管理

1 高齢者の口腔健康管理のための評価

- 高齢者への口腔健康管理の実施場面は、急性期医療から歯科訪問診療まで多岐にわたる。どのステージにおいても、口腔環境とその問題点を口腔アセスメントにて把握したうえで管理計画を立てることが必要である。
- OHATは口腔内の評価8項目を健全^[1]から病的^[2]までの3段階で評価する。
 - (1)^[3]
 - 外側に、乾燥や出血、ヘルペス等による水疱やびらんがないか観察する。
 - 内側に、潰瘍や口内炎がないか観察する。
 - (2)^[4]
 - 舌背と舌側縁を観察する。
 - 乾燥や舌苔の付着がないか、粘膜炎や潰瘍がないか等を確認する。
 - (3)^[5]
 - 腫脹や発赤が部分的か、全体的かを評価する。
 - 乾燥や義歯性潰瘍、頬粘膜のカンジダや扁平苔癬がないか観察する。
 - (4)^[6] ([⁷])
 - 唾液が泡沫状や糸を引いている場合には軽度の口腔乾燥、干からびた状態や粘性が高い場合は著明な乾燥状態とする。
 - (5)^[8]
 - う蝕、歯の破折、残根、咬耗について評価する。
 - (6)^[9]
 - 適合および破折の状態を観察する。
 - (7)^[10]
 - プラークや歯石と残留している食さを観察する。
 - (8)^[11]
 - 口腔内に痛みがないか聴取する。疼痛を訴えられない場合は、表情等から評価する。

2 健康な高齢者の口腔健康管理

- 2013年に策定された「健康日本21(第二次)」では、歯と口腔の健康に関しても2022年を到達年度とした目標値が掲げられた、80歳で20歯以上の自分の歯を有する人の割合を^[1]%と設定した。2016年の歯科疾患実態調査の結果では、80歳で20歯ある人の割合は51.2%で、高齢者の現在歯数はどの年代でも増えている。